

2023 年学校法人 三幸学園 仙台リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 可徳 智鶴

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学校全体の共通目標として「一体化」を上げ、教職員全体が一体となり、生徒により良い教育提供をしていく事を念頭に日々学校運営に従事した。また、教務においては以下の内容の目標・計画を上げて取り組んだ。

【“人”の側面による一体化の形】

- ①メンバー間の連携
- ②メンバーと講師の連携
- ③講師間の連携
- ④学園方針の浸透

【定量目標】

- ①退学率 目標 5.5% <結果:5.72%>
- ②精皆勤率 全学年 60% <結果:50%>
- ③クラスアンケート問 2. 私は担任の先生方の熱意や愛情を感じている。 3.57 以上 <結果:3.64%>
- ④授業アンケート問 5. 授業に対する先生の熱意を感じましたか 3.75% <結果:3.86%>

【具体的施策】

- ①ハイパーQU(適正検査)を 2 回実施後、意図的な面談設定(6 月と 10 月)
→生徒の状況を把握しモチベーションを向上
- ②学科別生徒情報管理シートの作成と一元管理
※全講師が日々の気づきを入力(特待生・生徒情報・出席等)
- ③保護者への連絡(4 月と 10 月)
- ④精皆勤率を 1 カ月に 1 度算出しクラスへ開示
- ⑤新任講師に向けた研修の実施(年始の 2 回)
→キャリアのある講師と差のない教育の提供
- ⑥教職員の授業見学実施、見学結果をフィードバック

※授業実践ガイドブックを活用し、授業力向上と指導基準の統一

⑦前期クラスイベント実施

→学校愛・クラス愛の醸成

⑧在校生提案による県民(東北)球技大会

→クラスを超えたコミュニティー醸成

⑨第2・3回全体会議にて各目標とする目指す人材育成像に対して振り返りの設定

→現状の把握と教育方針の再認識に伴うさらなる教職員の一体化

⑩学科・資格会議の実施(※年3回)

→学科毎に資格の合格に向けた施策・結果・次年度に向けての振り返り

⑪講師への情報共有ツールの確立

※2way のコミュニケーション機会を設定し、生徒情報共有の迅速化

② 学校関係者評価委員会コメント

・具体的施策の⑧について、とても良い取り組みだと思う。自分の在学中にこういった取り組みがあれば、他学科の学生との交流にも繋がり、より学校生活が楽しみになったと思う。(釜田委員)

・具体的施策の⑪について、自社では 2way コミュニケーションツールと発信型ツールを導入しているので、雇用形態に合わせ用途を分けて活用している。社員が多いので、様々なツールを活用する必要がある。(笠松委員)

・具体的施策の⑪について、自社では事業内容によりコミュニケーションツールを使い分けている。社員数が多くなるほど、こういったツールの活用は欠かせないものである。(古川委員)

評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校の理念・育成人材像など、入学者へはスタートアッププログラムにて動画や画像を用いて伝えているが、保護者へは入学前のオリエンテーションにて動画視聴を促しているものの、対面時に比べ視聴されておらず、理解されていないような様子が見受けられる。

② 今後の改善方策

学期末の成績発送時などで改めて、入学前オリエンテーションの動画の QR コードを送るなど、入学後の

ギャップを埋める為にも、保護者からの理解や協力は必要だと考える。

③ 特記事項

入学初期に、先駆けて業界で活躍している人材の講話(動画)の視聴機会を設けている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

人事・給与制度が創立以来変わらずであったが、見直して整備され、説明会などが実施された上で、2024年度より新たな人事制度でスタートしている。

② 今後の改善方策

人事評価制度の整備により、教職員へ浸透させるため、昨年度より説明会などの時間を多く設ける。

③ 特記事項

年に2回、常勤職員が一堂に集う会議があり、学園長及び理事長より事業戦略及び機能戦略について話を頂く機会がある。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

ボディメイクコースが開設された。より実践的な知識を学べる授業内容の定着と卒業後の就職先が課題となっている。就職を含めた企業連携、業界理解が必要となる。また、スポーツビジネス科の卒業生アンケートの向上については引き続き対策が必要となっている。

② 今後の改善方策

授業カリキュラムにおいては、学んだ事をアウトプット出来る機会として現場実習や企業と関わる機会を増加させる事、講師においては、改めて業界関係者の人材開拓を実施していく。また、職員の能力開発については、生徒満足度向上を図り、職員会議にて時間を設けて実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学科別の学びについて、採用時に在籍学科は特に重要視していない。面接試験の中で、学校でどのような事を学んできたか等は緊張をほぐす為のアイスブレイクとして質問している。(笠松委員)
- ・採用時は人間性を重視している。面接試験時は人間性を引き出す為の質問を行うようにしている。これまでの受験生は定型文的な回答が多かったが、最近の学生は雰囲気が変わってきており、学校での指導内容が変わったように感じた。最後の質問で個性を出してもらえると興味を引く。(古川委員)
- ・社員の研修・育成については力を入れている。社内で決められた研修の他に店舗独自の勉強会を実施しながら、日々のコミュニケーションを大事にしている。毎年実施している内容が目標評価シート(定量・定性)の作成で、給与への反映にもつながるが、育成ツールとしての活用が大きい。(笠松委員)
- ・マネジメントの役割は成果を上げる事だと考えており、理念とモチベーションが大事だと考える。モチベーションを上げるためには自己承認欲求が必要で、目標・ビジョンを設定して、いかに自己承認欲求・自己実現を引き出してあげるかが育成に繋がると感じる。目標を立てることができない社員へはとことん向き合い、まずは目標を立てる所からサポートを実施し、その上で目標に対する進捗を毎日確認している。自分がどうなりたかという明確な答えがない状態で研修を実施しても身になりにくい。(古川委員)
- ・研修制度について、入社後1年目に2週間程度で実施される研修があり、その中で行われるテストに合格すると研修後に任される業務が増えたり、給与にも反映される。研修実施は1年目がメインで、2年目からは実店舗での業務を通して実務能力向上が図られている。(釜田委員)
- ・本日、来校した際に学生からの挨拶が少なく、寂しさを感じた。企業としては明るく元気の良い学生を求めており、面接試験も話の内容より最初の雰囲気や明るさ、第一印象が重要であると考え。挨拶が活発化する事は学校全体の活気にも繋がるし、就職する上でも大事な事だと思う。(笠松委員)
- ・昔の学生と比較して、今の学生の方が真面目さを感じる。良い事ではあるが、挨拶(元気の良さ)は大事だと感じる。自分自身の入学の決め手はオープンキャンパスの際の在校生の気持ちの良い挨拶であった。今は、学歴よりも人間性が大事になっているからこそ、学力(知識)よりも心を磨く学びが大事だと考えている。企業側としてはもっと現場を知る機会を増やし、より実践的な学びを重視してほしい。インターンシップやアルバイトを通して人間性も見えるので、学生の育成と共に採用にも繋がると感じる。(古川委員)
- ・在学中に挨拶をする習慣が身に付いていたおかげで、実際に就職後に活かしている。学校生活における長期休暇は長すぎると感じていた。その流れでだらけてしまったり、欠席が多くなってしまう同級生は多かったように思う。(釜田委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職率については、生徒に対しクラス担当と業種担当の2名での支援を行い、就職内定の結果に結びつけることが出来たが、卒業後の就職定着率を図ることや状況把握に課題がある。

② 今後の改善方策

定着率を図るためには、生徒が多数の企業説明会等に参加し、企業研究をするようクラス担当や業種担当より支援をする。また、早期からの就職支援として新入生向けの業界理解セミナーを計画し、卒業後のキャリア形成に向けて学ぶ機会を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職活動の印象としては、教員へ相談できる環境があったので、学校へ求める事よりも自分たちの危機感が不足していた事が問題だったように感じる。(釜田委員)

・入社3年目以下の離職率が上がっている。離職を防ぐために気を遣う事はしていないが、会社として伝えるべきこと、身に付けるべきスキルは教え、合わなかった場合は仕方がないというスタンスである。ただ、会社からは離職防止に関する発信もあり、離職率が上がりすぎないように対応している。採用に関しては基本的に新卒採用がメインなので、中途採用はあまり多くない。(古川委員)

・入学時はスポーツに関連する仕事に就きたいと考えていたはずだが、学校生活の中で関連業種以外も検討する学生は出てくる。生徒が、いかに自分に合っている関連業種の企業を見つけるか、企業探求する仕組みづくりがあると良い。(古川委員)

(5) 学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

2023年度、同窓会を実施したものの参加者が少なかった。今年度は、参加しやすい曜日や時間帯などを卒業生へヒアリングしていく必要がある。また、卒業生の就職定着率を把握し、必要に応じて卒業生に支援できるように準備をする必要がある。

② 今後の改善方策

卒業生が出席可能な同窓会日程を候補として設け、事前に卒業生へ参加可否を確認し、出席率を上げていくと共に、卒業生が同窓会に出席するメリット(学びの機会や講師との交流)を検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・同窓会に関わらず、卒業後何十年も経過している卒業生の話よりも、直近の卒業生から話を聞く機会の方が、生徒が自分事として捉えやすく感じるので実施のメリットが大きいのではないかと。(古川委員)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

校舎の老朽化に伴い、施設での経年劣化の備品等が発生している。

② 今後の改善方策

2024年度中に、本館床面の改修工事を実施予定、その他適正な教育環境となるよう適宜、修繕等を検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

SNS(Google 検索)の口コミ、また近隣住民の方から、生徒のマナーに関するご指摘を頂くことが何度かあった為、地域や社会からも応援される地域に根づいた学校運営に務める。

② 今後の改善方策

卒業生や企業の方の来校時に、業界の情報や業界から見た客観的な視点として意見をもらい必要に応じて募集活動に反映していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令にて義務化されている自己評価とともに、評価結果の公開を継続していかなければならない

② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

産官学連携のうち、官にあたる行政や地方自治体との連携に課題がある。活動に関するご案内を提供頂く機会はあるが、学事予定との都合がついていない状況。

② 今後の改善方策

宮城野区役所様より、再度連携活動に関する機会提供を頂いているので、地域交流に繋げたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の就職先について、連携の取れる企業様との繋がりが無いので、卒業後のキャリア支援が課題となっている。

② 今後の改善方策

法人の留学生サポートセンターとも連携を図り、万全な受入体制を維持していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

いただいたご意見を基に、改めて挨拶指導の重要性を生徒・教職員ともに伝えていく必要があると感じた。

今後は、卒業生を活かしたキャリア教育を実施し、生徒へキャリア形成の考え方をどのように伝えていくのかを検討していきたい。教員の関わり方次第で生徒の行動は変わるので、アプローチの方法も検討していく。